

活動報告

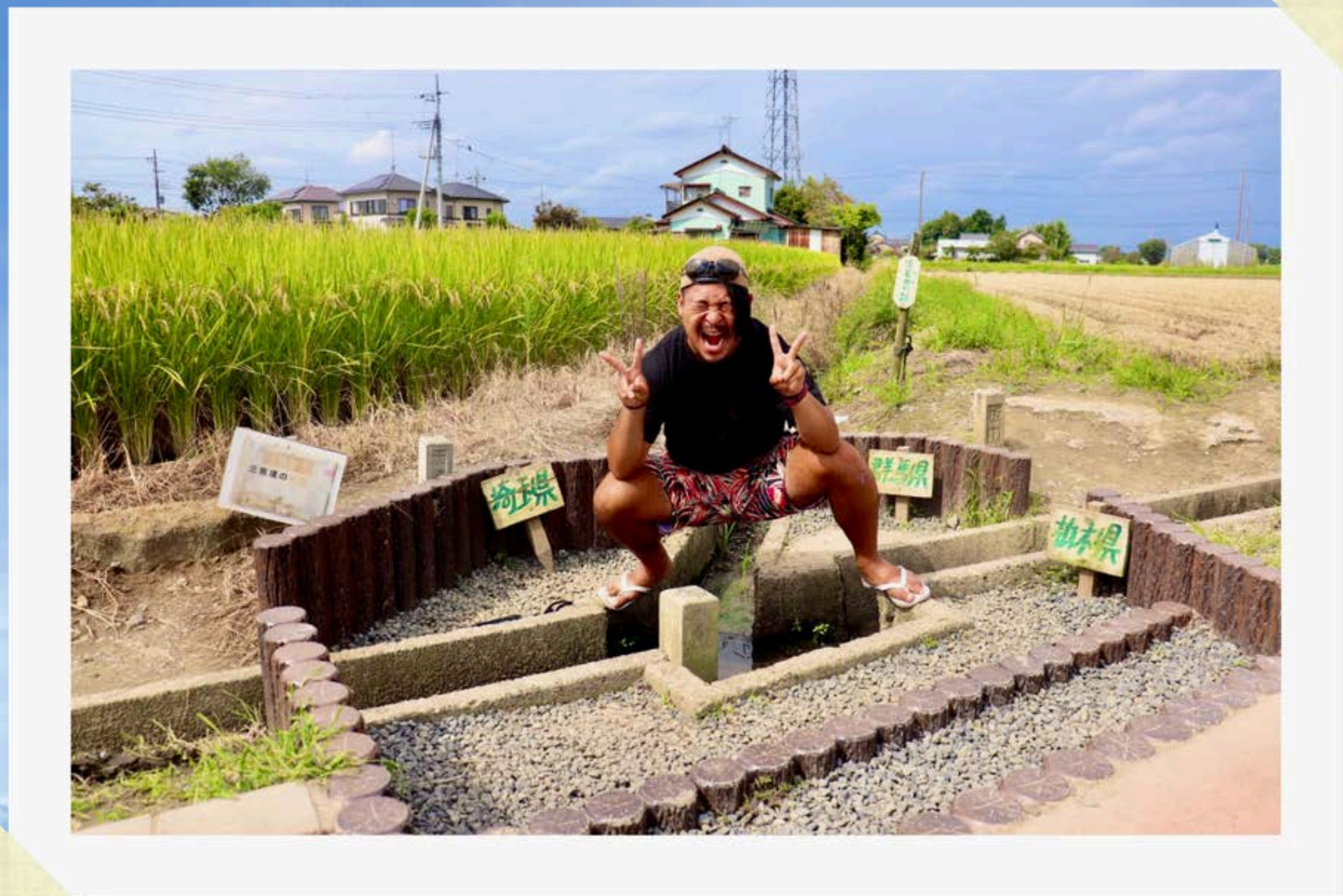
新庄市 総合政策課 地域おこし協力隊1年目 小澤 亜斗夢

もくじ

- P.3 自己紹介
- p.4 新庄市に来たきっかけ
- p.5～p.7 1年目の主眼
- p.8 1年目移住相談イベントに参加して
- P.9～p.12 地域密着型活動
- p.13～p.14 新庄市の地域おこし協力隊で1年間活動して

自己紹介

小澤亜斗夢 (26歳)



出身：栃木県宇都宮市

生年月日：平成11年11月29日

最終学歴：仙台大学卒業

趣味：野球、旅、動画編集

新庄市に来たきっかけ

新庄市に来る直前まで私は沖縄県の東村と言いう地で、村おこしをコンテンツにSNS活動と海のゴミを利用した体験を工房やっていました。東村という地は沖縄県本島の北部に位置し、インフラ環境がお世辞にも良いと言える場所ではなく、集客困難の壁を突破出来ず閉業、その後地元（栃木県）に帰り今後の生活を考えていた際に大学時代の友人に声をかけられ新庄市に遊びに訪れました。

5年前、日本一周をした際に一度来た事があった新庄市でしたが、沖縄県での生活の経験からか当時とは見え方が変わっていて、インフラの良さ、自然の魅力に惹かれ新庄市の地域おこし協力隊へ応募しました。

1年目の主な活動

ミッション：移住コーディネート、空き家対策

R7.5月

● **新庄市**

地域おこし協力隊着任

地域おこし協力隊

初任者研修



6月

移住フェア(東京)

神室産業高校活動発表

9月

11月28日

東京都在住山形県出身者

コミュニティ作りイベント

計画開始

(山形県民芋煮会)



7月

移住フェア (大阪)



10月

山形県民芋煮会

予算、募集、準備等



11月

山形県民芋煮会
移住フェア（東京）



12月

移住者用仕事紹介
資料作り開始
活動報告スライド作り開始

R8.1月

移住者用仕事紹介
資料作り
活動報告スライド作り



2月

移住者用仕事紹介
資料作り
活動報告スライド作り
活動報告練習
冬の最上地域探索



3月

活動報告

1年目移住相談イベントに参加して 直面した問題 『仕事って何があるんですか？』

最上地域
暮らし方
紹介



最上地域だけの
暮らし方
を見つける

令和7年12月

最上暮らしを
検討されている
皆様に
少しでも多くの
可能性を
見つけて欲しい。

古澤貴司・小澤垂斗夢

3

りんご園×
伝承野菜



佐藤 春樹
1981生まれ 45歳

伝承野菜農家 森の家 りんご園らっぱ
山形県最上地域で里芋とりんごの栽培・加工に取り組む佐藤さんの暮らしは、家族から受け継いだ営みを土台にしながら、地域資源に新たな価値を見出していく実践の積み重ねによって成り立っている。若い頃は会社員やスーパー勤務として働いていたが、日中に祖父母の農作業を手伝う中で農業の厳しさや現実を体感し、二十代後半から徐々に生活の重心を農へと移していった。転職となったのは祖母が守り続けていた在来の里芋の種との出会いである。名前も付いていなかったその芋を育て続け、地域の伝承野菜として認められるまでに発展させた経験は、現在の活動の原点となっている。

現在の暮らしは、季節の循環とともに明確なリズムを持つ。冬は種子を管理しながらりんご酒の仕込みを行い、春には畑を起して里芋の準備を進めると同時に、りんごの木の間伐作業に追われる。初夏には摘果作業、秋には収穫と加工が重なり、里芋とりんごという二つの作物が一年の仕事を支える。収穫物は出荷だけでなく自社加工場でジュースや酒へと加工され、数万本単位の製品として世に送り出される。畑仕事と製造が連続する日常は、生産から販売まで自ら担う農の暮らしの広がりを象徴している。

数年前には継承者のいなくなった親族のりんご園を引き受けた。実が安定してなるまで長い年月を要する果樹を絶やしたくないという思いからの決断だった。未経験から学び続け、有機栽培にも挑戦しながら加工品として価値を生み出す現在の姿には、単なる経営判断にとどまらず土地の営みを未来へつなぐ意志が表れている。

今後は酒づくりの深化に加え、テイストやグルーミングや宿泊機能を備えた拠点づくりを構想している。見学や試飲を通じて訪れる人が地域に触れ、滞在を通じて魅力を体感できる場を整えたいという。人の距離が近い地域性、美味しい米、豊かな自然の中で子どもが外遊びできる環境——そうした日常そのものが佐藤さんの考える地域の価値であり、移住を考える人々に伝えたい魅力でもある。

佐藤さんのライフスタイルは、特別な演出に支えられたものではなく、受け継いだ資源を守り、学び、形を変えて次代へ渡していく継続の中に在る。畑と加工場、人と地域の関係が重なり合いながら続くその暮らしは、地方に根ざした新しい農の姿を静かに体現している。

7

地域密着型活動

新庄市（最上地域）内の企業のSNSアシスト

山の幸いがらしさん

新庄市でご活躍されている山菜屋さんの五十嵐さんには密着させていただき、山菜事業の発信、新庄市の発信、『山形県民芋煮会』の集客用の発信を中心にSNS（ショート動画）の発信をお手伝いさせていただきました。TikTok、Instagram、YouTubeに同じ動画を投稿しYouTubeでは8,390人の登録者数まで伸びました。（R7.12月現在）



山の幸いがらしさんには携わってる理由・経緯



先輩隊員である奥澤貫司さんが事業継承される山菜屋さんであり、五十嵐さん宅2階をコワーキングスペースとしてお借りしている事から出会いました。挨拶をさせていただき、五十嵐さんは元々写真館を営んでおり、その頃の苦労や今直面している山菜認知の問題などお話を聞かせていただいた上で何か力になれることがあればとSNS発信に至りました。私自身退任後も副業として、山菜の取り手や加工のお手伝い等山菜事業の方には携われればと考えている現状です。

新庄市（最上地域）内の企業のSNSアシスト

現状、新庄市（最上地域）内の企業のSNSアシストが出来ているのは、山の幸いがらしさんのアカウントのみなので、来年以降もっと幅を広げて新庄市や最上地域の方々と魅力や紹介の発信が出来ればと考えています。

また、退任後も新庄市に住み続け、生きていけるよう事業化も考えていくところです。

来年1年間、SNSアシストを通して新庄市で活躍されている会社、事業により多く出会い携わり、退任後の幅を広げていきたいと思えます。





**新庄市の地域おこし協力隊で
1年間活動して**

「1年目は成果の数字よりも、地域を知り、信頼関係を築くことに重点を置いた一年でした。

SNSという自分の強みを活かした分野では確かな手応えを得ています。

2年目は、基盤を活かし“目に見える成果”につなげていきます。」